

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：濱田 幸雄 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：坂本 慎一
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線，在来線から発生する音を統一的に測定する方法として，A 特性音圧レベルより騒音暴露レベルを算出，さらに等価騒音レベルを最終的評価量とする方法を提案するための基礎データを収集する。 ・集合住宅の床衝撃音レベル，室内音圧レベル差の評価尺度は，居住空間の騒音レベルに影響されることから，室内騒音レベルを加味した遮音性能評価手法を提案することを目的とする。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：濱田幸雄 (日大工)，幹事：岩本毅 (三井住友建設) 委員：大脇雅直 (熊谷組)、大内孝子 (建設環境研究所)，古賀貴士 (鹿島建設)，須賀昌昭 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター)，浜田由記子 (大成建設)，向井達郎 (OTO 技術研究所)，松田貫 (BL 建設株式会社)，植村友昭 (鴻池組)，本田泰大 (大林組)	
設置 WG (WG 名：目的)	無	
2021 年度予算	45,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無
講習会	無
催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無
大会研究集会	無
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新幹線，在来線，貨物列車の軌道近くにおける録音から，単独走行，複合走行など各種パターンを想定した走行音を切り出し，窓の遮音性能，部屋の応答を畳み込んで試験音を作成，アノイアンスを指標とする聴感実験を行った。 2. 鉄道騒音の測定・評価方法について，世界的な動向を確認するために文献収集を行い，情報の共有化を図った。 3. 最終年度の活動方針について検討を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. Web 会議における討論の活性化を如何に図るか検討する必要がある。 2. コロナ禍における被験者実験実施の困難さに対する対策。

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価 ・ 最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音環境規準検討小委員会からの委託を受けて行っている鉄道騒音の測定・評価手法の検討として、聴感実験を実施した。その結果、3分間の試験音の LAeq,3min とアノイアンスとの相関が高いこと、列車の通過本数が増えるとアノイアンスが高くなること、通過時間の長い貨物列車はアノイアンスが高くなるなどの知見が得られた。 2. 鉄道騒音の測定・評価方法の世界的な動向を把握するために、WHO の環境騒音ガイドラインなどの文献収集を行い、情報共有を行った。 3. 文献調査より、WHO の日本に関する勧告値をどのように遮音設計に反映させるのか、が重要な課題であるとの共通認識が得られた。 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。